洞林寺護持会会報

錦柳

令和六年お盆・秋彼岸合併号（通算167号）

サギソウはランの一種で日本の固有種といわれ、主に湿地で自生します。白い花が鳥の「白鷺（シラサギ）」が羽を広げて飛ぶ姿に似ていることから命名されたといわれています。花言葉は「無垢」、「清純」、「繊細」、「神秘」、「夢でもあなたを想う」などがあります。

写真提供　伊藤眞一郎 様

『若宮丸漂流物語』との御縁

洞林寺住職　吉田　俊英

1、パラナ州開拓神社に祀られる人々

平成二十二年（二〇二〇）十月九日十日、ブラジル連邦パラナ州ローランジャ市の洞光山佛心寺で開創五十周年記念法要が執り行なわれ、私を含め十人の参拝団で日本から参加しました。

九日の法要終了後、仏心寺護持会の方々が我々一行をパラナ移民センター（移民資料館）に案内してくださいました。資料館の隣に神社が出来てました。十年前に来た時にはありませんでした。二〇〇三年十二月二十一日に完成し落成式が行われたとのこと。開拓先駆者を祀り、日系移住地の安泰を願い、日系移民の心の拠り所となる「場」を作ろうとして発願され建立されたのだそうです。

パラナ州開拓神社の御祭神

「祭神」として開拓神社に祀られたのは日本移民導入に奔走した水野龍氏や杉村濬元公使のほか、第一回笠戸丸移民の通訳等々です。日本ブラジルの移住史を多少学べば必ず出てくる名前です。「祭神」の一番から四番までの四名こそ、日本人として初めてブラジルに上陸した若宮丸漂流民の四名でした。恥ずかしながら、其の時は仏心寺の法要のことで頭がいっぱいで、祭神のことまで考えが及びませんでした。

2、宮城県の海外移住の歴史を紐解くと

宮城県の海外移住の歴史を総合的に纏めた資料や著作はありません。宮城の人で一番知名度が高い海外移住者は、新田次郎の『密航船　水安丸』の主人公及川甚三郎。そして『アラスカ物語』の主人公フランク安田。この二人だと思います。小説や映画で描かれると、知名度は高くなります。

宮城のブラジル移民の歴史については、平成二十一年に刊行された『赤い大地を拓く――ブラジル移住・宮城県人の一〇〇年』が最もよくまとまっています。宮城県の戦後の海外移住事業に旗振り役を務めた宮城県海外協会を前身とする宮城県国際交流協会が主導し、河北新報の現役記者とＯＢが編纂に取り組んだ労作です。この本の中で、「移住前史１」として若宮丸漂流民のことがかなり詳しく紹介されていました。

ブラジル移住百周年
記念誌『赤い大地を拓く』

洞林寺では先住道彦和尚が移民船でブラジルに渡った御縁で、移住者の留守家族の会「宮城県海外移住家族会」に参画してきました。ブラジル移民関係者が大部分の宮城県海外移住家族会ですが、全員が若宮丸

のことを知っていた訳ではありません。石巻市在住の佐藤富一郎会長（当時）はさすがに若宮丸のことは御存知でした。

海外移住家族会の総会の際に、当時東北大学災害科学国際研究所所長であった平川新教授にお願いして、若宮丸漂流民のブラジル上陸や世界一周についてお話いただきました。初めて世界一周を果たした日本人として、若宮丸漂流民はもっと知られて良いと思いました。

3、洞林寺での「新講談」の口演

七月二十日、洞林寺の会館で新講談『若宮丸放流物語』と南米音楽コンサートがラテンアメリカ文化協会主催で行われました。主催者代表の佐藤真守さんは宮城県海外移住家族会の会員であり、長年共に海外移住者の支援や交流に努めて来られた方です。

主催者代表　佐藤真守さん

名店「売茶翁」の菓子職人である佐藤さんは外国人留学生のために和菓子教室を開催したり、アルパ奏者ルシア塩満コンサートを定期的に開催したり、仙台在住の多くの外国人と交流のある方です。

其の佐藤さんから「コンサート会場が取れないので、洞林寺さんでやらせてもらえませんか？」と頼まれました。ルシア塩満さんには家族会五十周年の時には御協力いただき、たいへんお世話になりました。若宮丸漂流民にも不思議な御縁を感じておりました。会場の件は快諾し、開催のため多少のお手伝いをさせていただきました。

若宮丸漂流民の会が広報の一環として以前から新講談『若宮丸漂流物語』を上演していることは、会のホームページを見て知っていました。いつか聞いてみたいと思っていましたが、まさか洞林寺で聞く機会を持てると思いませんでした。

当日、藤沢智子アナウンサーは開演三時間前に洞林寺に来られました。マイクチェックを終え、本番用の衣装に着替え、一時間のリハーサルをして、午後五時からの本番に臨まれました。長年培ってきたアナウンサーとしての技術も然ることながら、一つ一つの言葉を大切に語る凛とした佇まいに感服しました。

「若宮丸漂流民の会」会長木村成忠氏と藤沢アナ

若宮丸の遭難から帰郷までの十数年間のすべてを四〇分間で語ることは難しく、漂流民たちのシベリアでの暮らしの部分などは端折らざるを得なかったと思います。それだけ彼らの世界一周は過酷であり、壮大なものであったと思います。いつか檀家さんたちの前で口演していただきたいですね。

洞林寺での南米音楽コンサート

護持会副会長　櫻井善郎

夏日の続く去る七月二十日、洞林寺会館二階において、新講談『若宮丸漂流民物語』と南米音楽コンサートの会が開催されました。

若宮丸漂流民とは、寛政五年（一七九三）十一月、石巻の千石船若宮丸が米八十トンと木材を積み、十六人の乗組員で石巻港を出て江戸へ向かった。しかし、その二日後、福島県の塩屋崎沖で暴風雨にあい、遭難。舵が壊れ、帆柱も切り捨てた若宮丸は、風と海流に身を任せ、真冬の太平洋を東へ北へと流されて、五か月後アリューシャンの小さな島に十六人の乗組員全員生きて上陸することが出来た。其の後、病没する者も居た。日本に帰る希望を捨てて、ロシアに帰化する者もいた。

講談を語る藤沢智子アナウンサー

数奇な運命に翻弄されながら、四名の乗組員がロシア船ナジェージダ号に乗せられて、ロシア、北欧、南米ハワイ等を経由して文化元年（一八〇四）九月、四人は十二年の歳月を費やして長崎に帰ってきました。日本人として初めて世界一周をしたのでした。

この長い旅路を東北放送の元アナウンサー藤沢智子さんが新講談として語りました。熱の籠ったプロの語りに聞き入りました。

後半のアルパコンサートは、残念ながらリーダーのルシア塩満さんは高熱のため、病欠されました。高橋マサヒロさんと菱本幸二さんがケーナ、サンポーニャ、ギター、チャランゴ等の楽器を駆使して「コンドルは飛んで行く」「花まつり」等フォルクローレ（南米音楽）の十数曲を手拍子足拍子を交えながら、聴衆と一体となり、大いに盛り上がりました。民族音楽の音色に魅せられ、有意義なひとときを過ごさせていただきました。ありがとうございます。

今回の催しは「ラテンアメリカ文化友好協会」さんとの長年の交流を経て、実現されたようですが、続きを期待しております。

南米音楽の演奏

特派布教道場と教区護持会総会

護持会副会長　横田俊明

去る六月二十四日（月）、第二教区護持会主催の特派布教道場と曹洞宗第二教区護

持会総会が開催されました。当護持会を代表して参加、出席させていただきましたのでご報告させていただきます。

今年の特派布教道場は、仙台市連坊小路の瑞雲寺において開催されました。曹洞宗管長大禅師猊下の御代理として愛知県　新蔵寺住職竹川正悟老師をお招きし、御法話を拝聴させていただきました。

竹川正悟老師は、曹洞宗管長様の布教方針を解説され、「御仏をこの身にいただく」と言う題でご法話をされました。その一端を紹介させていただきます。

竹川正悟老師の御法話

一、「確かな道を知っていなければならないのです」今からでも遅くはありません。

「菩薩の請願に生きることが、苦悩の世を安楽の世にする真の道であります。」修証義第四章を読経してください。

二、菩薩さまの大事な四つの行い

「布施」、「愛語」、「利行」、「同事」に勤めましょう。

三、道元禅師様

「自らが行いを仏道に照らし、謙虚に顧みよ」

瑩山禅師様

「必ず和合和睦の思いを生ずべし」

四、御仏に自らを重ね合わせる合掌

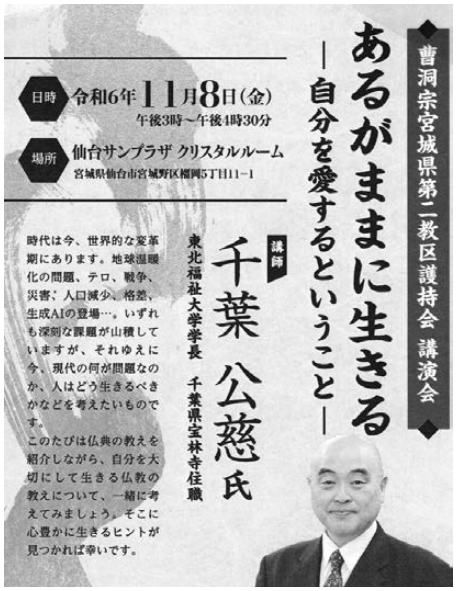
御仏をこの身に頂く座禅　一日一回背筋を伸ばし、膝の上に両手で円を描き一日を顧みる。和合調和を乱すのは、いつの世も人間の我利・我欲すなわち貪りであります。その貪りこそが苦悩の源であり対立闘争の根源なのであります。と瑩山禅師は問うておられます。

世界各地で起きている対立闘争も和合・和睦の精神をもって解決されることを念願いたします。

特派布教道場終了後、会場を新寺清月記に移し、階二教区護持会総会が開催されました。令和五年度の行事報告、決算報告、令和六年度の行事計画、令和六年度予算案が審議され、承認されました。

コロナ禍の影響で久しく中止されていましたが、今年から役員一泊研修旅行が実施されることになりました。

秋の講演会は、左記のとおり開催いたします。秋彼岸法要の際に、講演会の案内状を配布させていただきます。　以上



懐かしの昭和の記憶シリーズ No.9

昭和の仙台市営トレーラーバス

伊藤　眞一郎

皆様　ご記憶ありますか？

昭和二〇年代の仙台市営トレーラーバス。運転台がボンネットトラック形状のトラクターヘッドで引っ張る超ロングバスで、昭和二〇年代の短期間ながら、戦後復興を担う通勤通学の大量輸送手段として全国で活躍しました。私も子供の頃の思い出でヘッドボディーから空に向かってのマフラーから黒い煙を吐き出し、大きな化け物のようなバスの記憶があります。

昭和20年代に活躍したトレーラーバス

チョッとマニアックな話になりますが、当時日野産業（現・日野自動車）が製造したトレーラーバスでＴ１３Ｂ型＋Ｔ２６型の連接バス、エンジンは旧陸軍の装甲車用の統制型水冷６気筒ディーゼルエンジンの改良型を使用していました。客室側トレーラーは富士産業（現・スバル）などが製造し、巻き込み防止のため運転台は左ハンドルだったようだ。

活躍した期間が短かったため、余り詳しい資料は無いが、日本の戦後復興のシンボル的存在だった。

◎原稿募集
皆様のお便りをお待ちしております。

永代供養塔の御縁を頂いて

若林区　尾形　優子

先日は田舎の墓地改葬の相談で長居してしまいました。昨年から何度も同じことを質問し、説明していただくことになり、申し訳ございませんでした。毎回その都度丁寧にご説明頂き、感謝しております。

改葬する遺骨を納める日程については、こちらの希望が決まり次第、連絡差し上げます。この度は、たいへんお世話になり、ありがとうございます。これからも宜しくお願い致します。

去る四月七日、友人と新寺緑道と道沿いの寺を廻る花見をしていて、満開に咲き誇る桜の大木に出会いました。丁度「花祭り」の前日で、本堂前に白象に乗るお釈迦様の像が飾られており、本堂のガラス戸に映る桜も美しく、スマートフォンで撮影してみ

本堂前に祀られた誕生仏
本堂正面のガラスに桜が映ってます

ました。裏庭からはいったため、わからなかったのですが、正面から見て檀家としての御縁を頂いた洞林寺であることに気が付きました。印刷した画像を同封させていただきます。

梅雨時でも気温が高い日が続いております。どうぞ御身体を大切にお過し下さい。

身近かなニュース、心境などどうぞお寄せ下さい。

狭心症の治療記録

多賀城市　田中　悟

言い伝えられているわが家の家系を思い起こせば、高血圧、糖尿病の傾向が見られるらしい。そんなことでもあり、いよいよ後期高齢者になった自分は、暴飲暴食を慎むよう心掛けている。現在、高血圧の投薬治療程度で七十五年を過ごし、幸いにも病院のベッドに横たわったことはなかった。

数年前から定期的に脳ＭＲＩ検査を受けている某クリニックの医師に、診療の合間に『冠動脈の検査』について伺った。特に症状等がある訳では無かったが、先日ＴＶで放映されていたことを思い出し軽い気持ちで話題にしたところ、当院でも胸のＣＴ検査が可能とのことで早速検査を実施してもらった。

その結果に驚いた。仙台厚生病院に紹介状を書きますので持参して検査を受けるよう、指示があった。令和五年四月春うらの出来事であり、帰宅し家族に状況を説明し、まずは指示された行動に移すことにした。

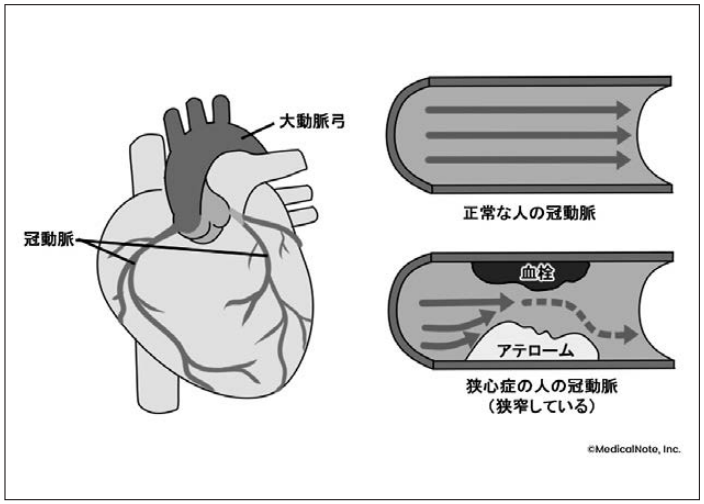
（以下具体的な描写は避け、簡記したい）

仙台厚生病院での検査では、『狭心症との診断で心臓から繰り出している冠動脈血管が二ヵ所狭くなっている。更に下肢に流れる動脈にも一ヵ所狭い末梢動脈疾患があり、いずれも手術しましょう』との診断結果であった。手術の言葉を聞いただけで心臓がバクバク、頭が真っ白、家族や職場に伝える言葉が見つからず不安で一杯であった。

○狭心症について

聞きかじりであるが『狭心症』とは、心臓から血液を送り出す冠動脈に狭窄が生じたりする病気で、急に胸に痛み、圧迫感、息切れ、動悸、疲労感等が症状として現れるとのことである。このような症状が二十分以上続く場合は、躊躇することなく救急車を要請、その多くは病院に着く前に死亡する怖い病気である。令和四年厚生労働省「人口動態統計」によると、狭心症、心筋梗塞での年間死亡者は、三万二千十六人との記録がある。

六時間以内に血流が再開されれば命は救われるそうである。治療は、腕等の動脈からカテーテル（管）を差し込み、狭くなった血管をバルーンで広げ、その部分をステントで固定する手術が主流になっているそうである。

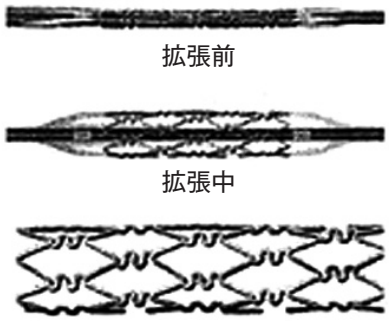


狭心症の仕組み

○入院三回の貴重な体験

令和五年六月、まずは下肢に通じる動脈のステント挿入手術に三泊四日、胸部にステント挿入手術に七月と九月の二回、各五泊六日、の入院手術を体験した。最後の九月の手術は生きた心地がしなかった。前の二回は僅か四五分程度であったが、九月は、三時間を要した。閉塞部分が随分異常な形態だったものと推測している。

難儀を掛けた主治医には本当に感謝している。腕にチクリと注射を打たれただけで全身麻酔のような措置もないまま、手術室のザワツキも感じながらの不思議な三時間を過ごした。看護師さんから後でこっそり伺ったが、「ほとんど四〇分前後なのに、田中さんなかなか戻らないけど大丈夫かしら」と心配の声が有ったとか無かったとか。



冠動脈用ステント

チタン合金などを網目様に組んだ直径２～３ｍｍのもの。血管内に留置されると体温により拡張状態となる。

○狭心症治療で分かったこと

一番大切なことは、恐ろしい病気ではあるが、早期に対応できれば健康が維持できる。

手術治療はほとんど無痛であった。血止めの圧迫バンドが思ったより辛かった。

私は無症状で、たまたま検査したら狭窄部分が発見された、と言うことであり、退院時に主治医からの話は「今後は普通の生活で良いですよ。手術でこれからの病気のリスクが少し減ったかな?」と優しく送り出していただいたことが幸いであった。

手術からほぼ一年になるが、大暑、熱中症警戒アラートが発令されている中で好きなゴルフに熱中出来たことを報告のラストにする。

北限のイペー　四年ぶりに開花

ブラジルの国花「イペー」が四年ぶりに開花しました。

令和二年（二〇二〇）年五月に初めて咲きました。其の後、二〇二一年、二〇二二年、二〇二三年と咲きませんでした。イペーは暖かい地域に咲く花です。日本国内でも関東から西の地域では毎年咲いています。自生しているイペーとしては洞林寺のイペーは一番寒い地域にあります。「北限のイペー」です。

４年振りに咲いたイペーの花

みちくのの

◇…ブラジルの国花「イペー」が5日、4年ぶりに仙台市若林区の洞林寺で咲いた。高さ約4㍍の木に、鮮やかな黄色の花が30ほど揺れている。

◇…寺は前住職（故人）の代からブラジルとの交流を続け、2016年に苗木が植えられた。南米では毎年咲くが、寒さに弱く東北での開花は珍しいという。

◇…「交流の歴史、多くの人との縁が詰まっている。つないできた縁を次の世代に伝えていきたい」と現住職の吉田俊英さん(68)。友好の証しの黄色い花を優しく見つめた。

一月二月の最低気温が影響しているのかもしれません。令和二年は暖冬でした。今年も暖冬であったことが功を奏したのかもしれません。

海外移住者の方々との交流と其の思い出が詰まっているイペーの木です。ささやかながら、洞林寺が国際交流に努めてきた足跡を象徴する木であると言えます。息長く生育してくれます事を願っております。

五月十二日の河北新報の朝刊で、小さな記事でしたが、洞林寺のイペーの開花が紹介されました。

◎ありがとうございます

墓参用バケツ　二十個、柄杓　十個
黒川石材店　様

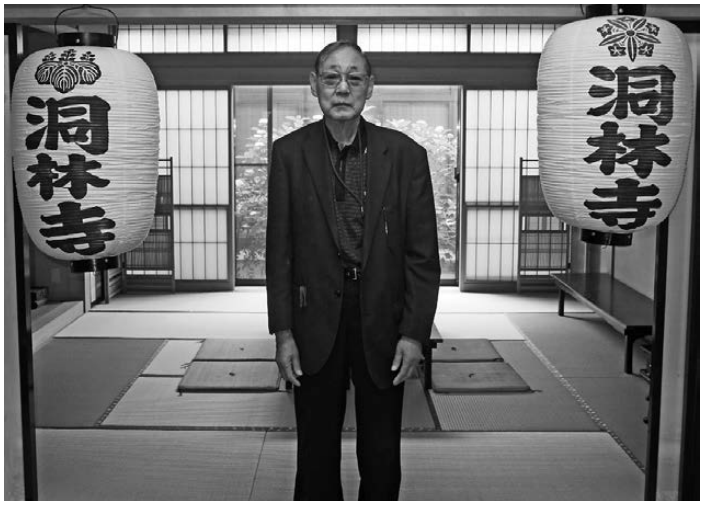
位牌堂幕、段内敷
齋藤　祥子　様

爲　徳照誠健居士菩提

大提灯御寄贈いただきました

お彼岸、お盆の際に本堂正面に、いつも大提灯を飾っております。現在の提灯は、平成二十二年五月に吉田武二様（故人）より御寄贈いただいたものです。十五年間、大切に使わせていただきましたが、長年の風雨を受けて次第に破損が広がって参りました。今年のお盆を最後に役目を終えることになりました。

新たな提灯を和田哲郎様から御寄贈いただきました。秋彼岸法要から、本堂前に飾らせていただきます。



提灯を寄贈いただきました

日本画「滝桜」を御寄贈いただきました

石踊紘一画伯画の日本画「滝桜」を横田俊明様から御寄贈いただきました。会館二階東壁に掲示させていただきました。

石踊紘一画伯は旧満州に生まれ、一九六四年東京芸術大学絵画科日本画卒業。一九六七年法隆寺金堂壁画模写に従事。インド各地を取材旅行し、ヴィシュヴァ・バラティ大学でインド古典絵画を学ぶ。

石踊紘一画「滝桜」

あとがき

護持会副会長　佐藤泰憲

● 会報を発行するごとに、私ども編集委員が集まり、紙面の構成、割付などの編集会議が持たれる。最近はその都度メンバーからボヤキが出ることが多い。「我々の役目は書くことではなく、纏めることなんだがナ……」原稿が少ないと、何とか誰かが文章を起こし、急遽、記事を書くのが常になっているのです。

● 毎回お願いしていますが、日常の出来事や趣味の話、些細なことでも構いませんので、是非お送りください。考える、纏めてペンを取ることは、お互いボケ防止にも効果有りです。決して、作家の様に、新聞記事の様に上手く書こうと思う必要はありません。

● メールやラインによる一方通行ではなく、又、専門的な文章だけでもなく、護持会とお寺さんを繋ぎ、会員相互のコミュニケーションの手段として、今後もご利用頂ける様にお願いするとともに、出稿を御待ちしております。

● さて、この編集後記を書き終えたので、明日は編集会議ですが、今回の原稿の集まりはどうなんでしょうか？

編集
発行　洞林寺護持会

責・佐々木(広)・佐藤(泰)・田中・澤田・伊藤

仙台市若林区新寺五丁目四－二八　TEL(256)三四〇六